

木育 かわら版

MOKUIKU

知ろう、使おう、広げよう、みやざきの木



木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ

Vol.
11

Contents

Page1	宮崎工業高校インテリア科木育授業
Page2	宮崎工業高校事後学習会、高千穂高校1年生木育授業
Page3	みやざき木育プログラム教材開発
Page4	もくもくパーク夏祭り2019、五ヶ瀬町三ヶ所小学校木育

高校生を対象とした木育授業の実施

宮崎工業高校インテリア科木育授業

日時：令和元年10月8日(火) 8:30～16:30

視察先：株式会社松岡林産 伐採現場（綾町）
都城木材株式会社 本社工場（都城市）
宮崎県木材利用技術センター（都城市）
ランバー宮崎協同組合（宮崎市高岡町）

参加者：インテリア科2年生、関係者



木育活動の一環として、宮崎県立宮崎工業高校インテリア科2年生を対象に、地域の循環資源である木材をテーマに伐採現場・木材加工企業などへの現地見学会を開催しました。

➤ 松岡林産伐採現場



伐倒、集積、造材などの説明



➤ 宮崎県木材利用技術センター



施設見学



高性能林業機械の説明



➤ ランバー宮崎



会社の概要説明・工場見学



➤ 都城木材



会社の概要説明・工場見学



● 生徒の感想 ● <一部抜粋>

- ・伐採する様子を生で見て迫力がすごかった。難しそうなことをたくさんしていたので理解するのに苦労した。
- ・木が伐採され、どのように角材や板になるのかを見せて頂いた。いつも何気なくホームセンターなどで見かけていた木材が、どのようにして出来ていくのかを知ることができた大変貴重な体験となった。
- ・どの事業所も最新機器を取り入れた仕事を行っていた。近代の林業の機器は非常に発達しており、作業をスムーズに進めるには必要な不可欠なものとなっていた。また、近年の技術が素晴らしいと思った一方、法隆寺などの日本を代表する歴史的木造建築物などを含めた日本古来の建造物全ては、このような機器を使わずにしてあれほどまで繊細な作りになっていることを感心することが出来る良い機会となった。
- ・初めて木の伐採、加工がされている現場を見て、自分が想像していたところとは違うところがたくさんあった。人が動いている姿を実際に見て勉強になるものがすごくあった。
- ・木は地球環境に大きく関わることなので環境についてもう一度考えるきっかけになった。



MOKUIKU

高校生を対象とした木育事業 宮崎工業高校事後学習会

日 時：令和元年11月5日(火)

13:25～15:15

場 所：宮崎県立宮崎工業高校

参加者：インテリア科2年生、関係者



10月に実施した林業の現地見学会の事後学習会を協力いただいた事業体の皆さまを招いて開催しました。当日は生徒が見学した内容を発表した後、生徒からの質問に答えて頂く形式で、事業体の方と交流を行いました。

● 生徒からの質問 ● <一部抜粋>

【松岡林産】

- Q. 大変な仕事を乗り越えるためのやりがいとは？
A. 多面的利用を誇りにもって環境に貢献していること
Q. 伐採現場に携わるきっかけは？
A. 祖父の代から製材所を営んでいる。大学を卒業し横浜で会社勤めをしていたが、人間らしさが無いと思い辞め今に至る。
Q. 大変だったことは何か？
A. 大変なことも大変じゃないようにしているが、ゲリラ豪雨が
多く作業道が壊れトラックの通り道がなくなると大変。

【都城木材(株)】

- Q. 会社に入ったきっかけは？
A. マイホームを自分の手で建てたかったから
Q. 入社前と入社後で変わったことは？
A. 最初は給料や休日ばかり気にしていたが、最近はやりがいを重視するようになった。
Q. 伐採され商品になるまでどのくらいの日数がかかる？
A. 乾燥するのに時間がかかり、モノにより日数が違うがお客様の要望に応えられるよう努力はしている。

【ランバー宮崎】

- Q. 木材に携わるきっかけは？
A. 親が会社を営んでいたため。
Q. 会社を営むにあたり不安や心配なことは？
A. 怪我がないこと。
Q. 経営者の立場から社員に求めるものは？
A. 担う仕事により違うが、5～10人をまとめる責任者であれば、セクションに問題がないか、問題があれば解決を求めている。



写真は
左上：ランバー
宮崎
右上：松岡林産
左下：都城木材
の各代表者

● 参加企業の感想 ●

- ・自分の会社の特徴をもう少しまとめて説明した方が良かった。
- ・我々が話したこと以外にもよくまとめて話していた。現場も皆さんが来るのを楽しみにしている。
- ・教えることも教わって良い発見になった。皆さんがしっかりしていた。社員にも報告したいと思う。
- ・夢は叶えるものだと思う。やりがいを見つけてがんばってほしい。

高千穂高校1年生木育授業

日 時：令和元年10月25日(金) 8:30-16:30

視察先：原木市場（高千穂林産物流通センター）

伐採現場（高千穂町）

造林現場（高千穂町）

参加者：1年生（普通科、経営情報科、生産流通科）、関係者

木育活動の一環として、高千穂高校1年生を対象に、地域の循環資源である木材をテーマに伐採現場などへの現地見学会を実施しました。その後、林業家の方々とトークセッションを行いました。

➤ 原木現場



原木仕分け、競り、配送などの説明

➤ 伐採現場



伐倒、集積、造林の説明



➤ 造林現場



造林作業体験

➤ トークセッション



● 生徒からの質問 ● <一部抜粋>

- Q. 女性林業家として現場で大変なことは？
A. トイレ。現場にはないので。
Q. どうしてこの職業に就いたのですか？
A. 目指していた夢を途中挫折している時に、知人から誘われこの世界に入った。
Q. どんな資格を持っていますか？
A. チェンソー、刈払機、車両系建設機械、林業架線作業主任者等



木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ

みやざき木育プログラム 教材開発

今年度から木育活動のより一層の向上を図るため、木育指導を行う人材（木育指導員（仮称））の育成及びみやざき木育プログラムの開発に取り組んでいます。今回は西臼杵をフィールドとして木育プログラム及び教材の開発を行いました。

①みやざき木育プログラム作り

日 時：令和元年8月26日(月) 13:30-16:00

場 所：西臼杵支庁 2階 大会議室

参加者：保育士、林業関係者、行政他

西臼杵では林業振興協議会が中心となって、園児や小学生を対象とした木育の実践を行ってきました。これまでは岐阜の木育プログラムを参考に、スギの円盤を割って作る「森のかげらのお守りづくり」などを行ってきましたが、西臼杵の文化や暮らしを背景とした西臼杵らしい教材を考えることとなりました。

この日は、3つの班に分かれ、それぞれ、教材、その教材に込めた、伝えたい思い、願い、どのように教材化したいかを発表しました。出たアイデアの中から事務局と指導員候補生と加工業者で教材を選定し、実践に向けた企画を練っていきます。



②みやざき木育プログラム作り

日 時：令和元年9月17日(火) 13:30-16:00

場 所：西臼杵支庁 2階 大会議室

参加者：保育士、木材関係者、行政

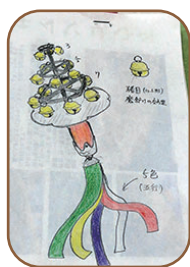
前回出た教材アイデアの中から、モデル園が欲しい教材や実験に試作として出来そうなモノの絞り込みを行いました。

前回出た教材案では、楽器、遊び、食べる、使う、飾る、身につける、と6種のカテゴリーのものがありました。その中で選ばれたのは「神楽鈴」と「おもちゃ箱」でした。

地域らしい教材となったとき「神楽鈴」は伝えたい文化としてとても重要であるが、地域ごとに舞い方が違う、相当な練習が必要であり、教える人がきちんといるなど、体制を整える必要がある、など課題も出てきました。

「おもちゃ箱」に関しては、子どもたちが日常的に使えるものであり、家具作りなどでのこぎりやノミを使用させている園なので、年少さんは年長さんが作る姿を見ることで、憧れ、モノを大事にする心が育まれるのではないかと期待が寄せられました。

候補としてあがった教材については、加工業者に製作を依頼し試作品を通し、再検討します。



神楽鈴のアイデア図

③みやざき木育プログラム作り

日 時：令和元年10月17日(木)

13:30~16:00

場 所：西臼杵支庁 2階 大会議室

参加者：保育士、林業関係者、行政他

西臼杵の保育園関係者に集ってもらい、試作した教材を持ち寄り意見交換会を実施しました。

➤ 神楽鈴試作教材



試作は甲斐木工所（高千穂町）とイエムラ・マルウッド（延岡市）に依頼し、円盤と組子細工風の2種類を保育士に見てもらいました。

参加者の意見としては「円盤の方が実物に近い形で良い」「園児が持つには重すぎるのでもう少し軽くしてほしい」という意見がありました。

➤ おもちゃ箱試作



試作品は、天岩戸保育園の棚のサイズに合わせたもので、各園の大きさに合わせることが出来ます。参加者の意見としては、「園児が持ちやすいように指が入る取っ手をつけてほしい」「園児が持つには重すぎるので軽くしてほしい」という意見が出ました。

出た意見を参考に改善し、岐阜に持ち込みブラッシュアップを行います。

④みやざき木育プログラム作り

日 時：令和元年11月12日(火) 13:30-17:30

令和元年11月13日(水) 13:00-17:00

場 所：百年公園（岐阜県関市）・岐阜県立森林文化アカデミー

参加者：保育士、林業関係者、行政他

岐阜県立森林文化アカデミーの松井先生、musubi 代表の吉田氏に県より今年度の取組や課題の現状を伝えたくて、教育プログラムの企画内容の説明を行いました。



松井先生より、神楽鈴に関しては「神楽を県の財産として高千穂以外にも伝えることで県のスタンダードプログラムが成立するのではないか」。整理箱は「大きさは身体尺を基準に決める」「みやざきスギの良いところだけでなく悪いところも伝える」といったアドバイスがありました。また、プログラムを考えるにあたり、樹の命、人の命、木工、道具、作る体験の中で何を伝えるのか、何を学ぶのかが一番重要であるとの話もありました。2日目はそのアドバイスをもとに、企画書を練り直し必要な道具や準備物を洗い出し「導入」「展開」を具体的に話し合いました。

➤ 神楽鈴教材

人や自然とのつながりを考えるツールとして「感謝」をテーマとし、コストが掛からないよう、鈴を2段とする。イメージを伝えるサンプルとしてスギの板や葉っぱを準備し特徴を伝える。神楽の映像やパネルを準備する内容のプログラムとした。

➤ おもちゃ箱教材

名前を宮崎らしく「ひなた箱」とし、取っ手の部分の形を円にする。

先生より、卒園までに何を学ばせるかを考え、それに沿った準備が必要であることなどのアドバイスがありました。今後、今回のアドバイスをもとに企画書を完成させ、2月の先生の来県に合わせた実践を行います。

木育サポータースキルアップ講座等の開催

もくもくパーク夏祭り 2019

日 時：令和元年8月9日(金)～15日(木) 10:00～19:30 ※最終日は17:00まで
 場 所：宮崎山形屋 新館5階大催場
 参加数：42名(木育サポーター14名、学生ボランティア28名)
 来場者数：9,236名

「もくもくパーク夏祭り2019」内で、来場者にワークショップを実践しながら学ぶ講座を行いました。

➤ ワークショップコーナー



日替わりで木育ワークショップを実施しました。指導は木育サポーター及び学生ボランティアが行いました。

作ったものは・・・

スプーン、さいせん箱、フォトフレーム、森のお守り、バードコール、色えんぴつ、ボールコロコロ、ぞうさん、たから箱、トラック、えんぴつ立て ※えんぴつ立ては宮崎工業高校生企画



連日、多くの親子連れで賑わったワークショップコーナー。作る前に、木に関するクイズを行い、「木」のことを知ってもらってから作ってもらいました。

➤ 遊具コーナー

遊具コーナーには、ままごと広場、ジャングル広場、ビー玉コロコロコーナー、ベビーガーデン、縁日コーナーが設けられました。



毎年大人気の遊具コーナー。五感を使って遊べる木の遊具で、飽きることなく遊ぶ子ども達。真剣な顔、笑顔、様々な表情が見られました。子どもたちの見守りに木育サポーターも参加し、遊び方も伝えました。



今回は、お子様用の林業服装を準備し、林業家と一緒にチェーンソー(ダミー)を使い、林業家体験を行いました！

五ヶ瀬町三ヶ所小学校木育

日 時：令和元年12月7日(土) 13:30～16:00
 場 所：五ヶ瀬町三ヶ所
 参加者：児童10名、保護者・幼児9名、先生2名

木を伐ったあとに、また木を植えることの大切さを伝え、児童と植林を行いました。そのあと、木についてのお話とのかぎりの使い方を説明し、オビスギで“おきよ丸づくり(ふね)”を作りました。山づくりの大切さと大変さを学び、山や木との繋がりを感じてもらいました。



木を植えることの大切さを説明



苗を鹿の食害から守るカバーに将来の夢を書きました



のかぎりの使い方の説明



懸命に磨きます



植林



木についてのお話



大人と一緒にのかぎり切り



完成！

木育ネットワーク部会とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやぎき木づかい県民会議を平成25年2月に設置し、木づかい運動を進めてきました。

木づかい運動を進めるうえでは、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林、林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政などの参画による木育ネットワーク部会を設置しました。

みやぎき木づかい県民会議 木育ネットワーク部会 事務局

宮崎県森林林業協会・宮崎県山村・木材振興課みやぎきスギ活用推進室

〒880-0802 宮崎市別府町3番1号 宮崎日赤会館2F TEL: 0985 (27) 7682 / FAX: 0985 (25) 2398

※木育かわら版の発行には「宮崎県森林環境税」が活用されています。



木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ